

抗菌薬使用の啓発の ポイント ～小児科医の立場から～

薬剤耐性(AMR)対策推進国民啓発会議資料

国立成育医療研究センター 感染症科

宮入 烈

抗菌薬を正しく使うための 啓発活動

個人レベル: 一人一人の患者さんに対して、医師として説明をしています。

病院等組織レベル: 地域の医師・歯科医師向け及び地域の保護者向けの講演会を行っています。

(東京都立小児総合医療センターの例です。:堀越裕歩先生より)

医師等医療者向け

http://www.byouin.metro.tokyo.jp/shouni/renkei/asp.html#torikumi_asp

保護者向け

<http://www.byouin.metro.tokyo.jp/shouni/kanja/koukinyaku.html>

患者さんにお伝えしている事

① ウイルスによる「感冒」に対する抗菌薬は無効で有害な可能性があります

感冒（鼻水、せき、ねつ）のある患者さん



抗菌薬を飲んだ人

プラセボ薬（有効成分を含まない薬）
を飲んだ人



治りに差はありません

抗菌薬を飲んだ人に副作用が多くみられました

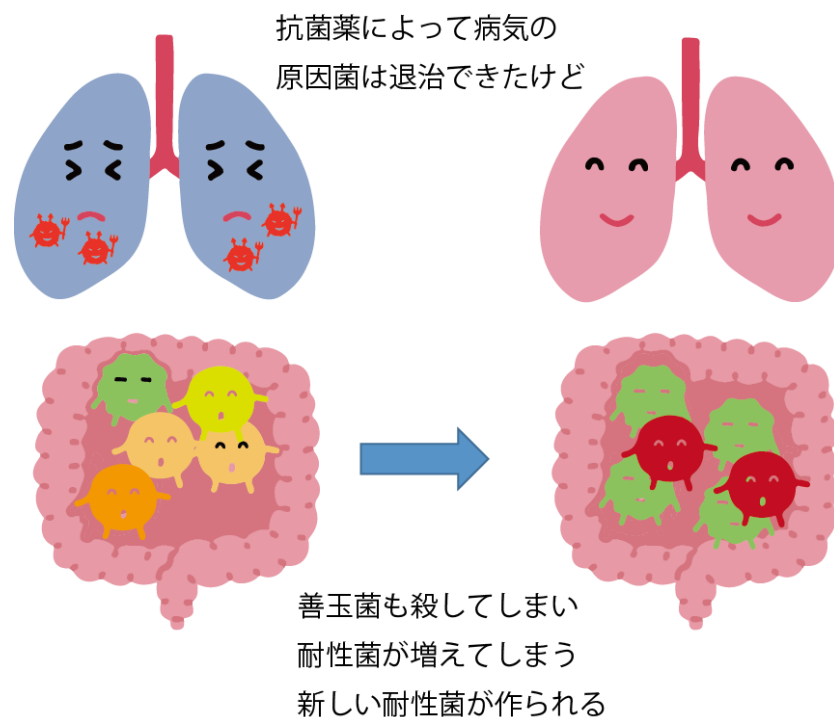
（出典元：コクランレビュー 2013:CD000247）

自己判断で家に残っている
抗菌薬を飲んだりするのは
やめましょう

患者さんにお伝えしている事

② 抗菌薬が必要となる子どもに多い感染症のほとんどは最もシンプル(狭域)な抗菌薬で治療が可能です。色々な菌を殺してしまう抗菌薬は、腸内細菌を乱して耐性菌を増やしてしまいます。

色々な菌に効く抗菌薬は、とっておきの手段に残しておきましょう



患者さんにお伝えしている事

③ ウイルスによる「かぜ」であっても、一部は 抗菌薬が必要となる細菌感染症に進展する場合があります。医師による見極めが重要です。



ほとんどは
自然に良くなる

副鼻腔炎、中耳炎 など

熱が続く場合、症状が長引くときはかかりつけの 医師を受診してください。

患者さんにお伝えしている事

④ 予防が大事です！



啓発活動を通して医師として学んだ事

「かぜ」と呼んでいるものは人によって違うので、患者さんには誤解のない丁寧な説明が必要

マイコプラズマ、
蓄膿症、溶
連菌...

かぜ
ですね

ウイルスに
よる感冒

